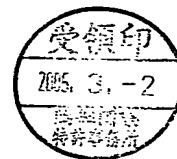


特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人 岡部 正夫 あて名 〒 100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル602号室	様
--	---



PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日 (日.月.年)	01.3.2005
----------------	-----------

出願人又は代理人 の書類記号 KW301PC	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
----------------------------------	-------------------------

国際出願番号 PCT/J P 2004/018541	国際出願日 (日.月.年) 07.12.2004	優先日 (日.月.年) 10.12.2003
-------------------------------	-----------------------------	---------------------------

国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ H04Q7/36

出願人 (氏名又は名称) 株式会社ケンウッド

<p>1. この見解書は次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</p> <p>2. 今後の手続き</p> <p>国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。</p> <p>この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。</p> <p>さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。</p> <p>3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。</p>
--

見解書を作成した日 14.02.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 桑江 晃 電話番号 03-3581-1101 内線 3534

第1欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1、3	有 無
	請求の範囲 2	
進歩性 (IS)	請求の範囲	有 無
	請求の範囲 1-3	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-3	有 無
	請求の範囲	

2. 文献及び説明

文献1 : JP6-343057 A(日本電気株式会社)
1994. 12. 13, 段落【0009】, 第2図(ファミリーなし)

文献2 : JP 09-507624 A(ノキアテレコニュニカシオンス オサケ ユキチュア)
1997. 07. 29, 要約
& WO95/19687 A1
& AU 9514177 A
& CN 1138938 A
& EP 740891 A1
& FI 9400196 A

文献3 : JP11-32366 A (日本電気移動通信株式会社)
1999. 02. 02, 段落【0005】、【0006】
& GB 2328586 A
& US 6240298 B1

文献4 : JP3-242052 A (株式会社日本ゼネラル)
1991. 10. 29, 第2頁左上欄第20行~右上欄第11行
(ファミリーなし)

文献5 : JP5-32933 A (株式会社東芝)
1993. 05. 18, 第1頁右欄第5行~第10行
(ファミリーなし)

請求の範囲1に係る発明は国際調査報告で引用された文献1と国際調査報告で引用された文献2とにより進歩性を有しない。

文献1段落【0009】には、移動通信システムであって、通話チャネルがすべて塞がっている場合には、制御チャネルを通話チャネルとして用い、塞がっている通話チャネルのいずれかが空いた時には、空いた通話チャネルを新たな制御チャネルとする構成が記載されている。

第Ⅶ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 3 は、請求の範囲 1, 2 を引用しており、「制御チャネルとして用いられている通話チャネルの空き情報を示す情報を組込んで送信する」との記載がある。

しかし、請求の範囲 2 では、通話チャネルを制御チャネルとして用いることがない構成となっており、前記「制御チャネルとして用いられている通話チャネル」との関係が不明である。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

文献2の要約には通話チャネルが新たな制御チャネルとなったことを無線ユニットに通知する構成が開示されており、文献2の構成を文献1の移動通信システムに採用することは当業者にとって容易である。

なお、文献1において、すべての通話チャネルが使われているので、文献1の移動通信システムに、文献2記載の通話チャネルが新たな制御チャネルとなったことを通知する構成を採用したときに、すべてのチャネルを用いて新たな制御チャネルとなったことをを通知する構成となることは明らかである。

請求の範囲2に係る発明は国際調査報告で引用された文献3段落【0005】、【0006】、又は文献4第2頁左上欄第20行～右上欄第11行の記載により新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲3に係る発明は、文献1、文献2、国際調査報告で引用された文献5とにより進歩性を有しない。文献5第1頁右欄第5行～第10に記載のように、通話チャネルの空き情報を無線ユニットに通知する構成は周知である。前記周知技術を文献1に採用することは当業者にとって容易である。